

平成25年度

久米島町教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書

平成26年12月

久米島町教育委員会

ま え が き

久米島町教育委員会では、子ども達が「島に誇り」・「心に夢」を持ち、「個性豊かで創造性・国際性に富む活力ある人材」を目指すことができるよう教育振興に努めております。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、久米島町教育委員会の活動状況及び教育施策の実施状況についての点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

なお、点検・評価に当たっては、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしました。

久米島町教育委員会委員名簿（平成26年9月1日現在）

職 名	氏 名	任 期
委員長	山元朝弥	23年7月10日から27年7月9日
職務代理者	儀間剛	24年7月10日から28年7月9日
委員	平良弘光	26年4月 1日から29年7月9日
委員	糸数真由美	26年7月10日から30年7月9日
委員（教育長）	吉野剛	26年7月10日から30年7月9日

学識経験者名簿（五十音順）

役 職	氏 名
元久米島 PTA 連合会会長	吉原 昌司
元高校教諭	赤嶺 實
元養護教諭	宮平 厚子

I はじめに

1 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。このため、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があります。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正において、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められています。

町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、町ホーム・ページ等で公表し、町民への説明・責任を果たし、町民に信頼される教育行政を推進することを目的とします。

2 対象事業と点検・評価の方法

(1) 久米島町教育委員会が策定した「平成25年度久米島町教育委員会事務事業」において、主要な事業の取り組み並びに達成状況について点検・評価を行いました。

(2) 評価方法

教育施策の各項目について、達成度により内部（自己）評価しました。

・達成度（A～D）

A・・・十分達成できた

B・・・概ね達成できた

C・・・やや不十分である

D・・・不十分である

(3) 外部評価

点検・評価にあたり、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する次の3名の方にご意見をいただきました。

(4) 評価基準日

平成26年3月31日

平成25年度 久米島町教育主要施策

久米島町教育委員会

教育主要施策の策定にあたっては、国や県の教育改革の動向、県の重点施策の基本方針、第3次沖縄県教育推進計画等を踏まえ、「平成24年度久米島町教育主要施策」を定めました。

教育の目標

- ◆自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ、幼児児童生徒を育成します。
- ◆平和で安らぎと活力のある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際化・情報化社会で活躍する心身ともに健全な町民を育成します。
- ◆家庭・学校・地域社会の相互連携のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会を推進します。

目標達成のための主要施策

学習指導の工夫・改善・充実

学校教育においては、幼児児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力の育成及び豊かな心、健やかな体の育成など「生きる力」をはぐくむ学習活動を教育活動全体で充実させることが重要であり、自らの個性を生かし社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性の基礎を培う育成を目指します。

この為、学校においては、教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実させるとともに、目的意識を高める指導方法等の改善・充実を図る等、適切な教育課程の編成・実施に努めます。

また町教育委員会においては、管内各学校が創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成・実施できるよう各学校の実情に応じた適切な支援を実施します。

(昨年の評価)

主要項目	内 容	取 り 組 み	課 題	評 価
学力調査	1, 全国学力学習状況調査 2, 県到達度テスト 3, 標準学力検査	1, 小6年生・中3年生 2, 小3・5年生、中2年生 3, 小4～6年生、中全学年	・各小学校及び中学校で学校間学年間において二極化の傾向が見られる。 ・自分の考えを根拠を基に説明する問題に課題が見られる。	B
読書実態調査	各学校における、学年ごとの読書冊数調査	読書数値目標小学校110冊、中学校40冊を目標とする。	読書冊数は小学校・中学校ともはクリアしているが、ジャンルに偏りが見られる。	B
検定支援	1, 漢字検定 2, 英語検定	小学校2年以上に漢字検定 中学校生全員対象	受検率の向上、上位進級への向上心を更に芽生えさせる取り組みが必要がある。	B
地域教育資源活用支援	地域の人材や地域環境等を活用した教育活動への支援	地域の人材及び施設等を各教科の授業や行事等に活用する。	地域人材の確保	B
公営塾	1, 島内小学生の学習支援として「ゆいまーる塾」開設 2, 県の離島僻地支援事業として「にゅうまーる塾」を開設	1, 本町児童の学力向上を図るため3・4年生を対象に塾を開設支援する 2, 学習支援員を配置し中学生の学力定着を支援する	塾開講の周知不足、又、保護者に意義が十分に理解されてなく児童・生徒の受講が少ない	B

久米島町学力向上実践発表会	学校・家庭・地域が連携し、学力向上を目指して各学校が取り組んだ実践を発表する。	各中学校ブロックごとに開催 仲中ブロック：仲里小学校 久中ブロック：久米島小・中学校 西中ブロック：大岳小学校	学校・家庭・地域連携の学力向上を目指しているが、保護者や地域の方の参加が少ない。	B
---------------	---	--	--	---

道徳教育・人権教育の充実

道徳教育は、児童生徒一人一人に豊かな心を育み、自他の生命を尊重する心を基盤に、美しいものに感動するなどの豊かな情操、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神、健康・安全、規則正しい生活などの基本的な生活習慣を育むとともに、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を培う。このため、学校においては、児童生徒の発達の段階に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を培う道徳教育を、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて計画的・発展的に指導を推進します。

人権教育は、生命を大切にし、自他の人格を尊重し、互いの個性を認め合う共生の心などの豊かな人間性をはぐくむことを目指して行うことが重要であり、学校においては、人権尊重の考え方や共生の心について正しく身に付けさせる指導を充実させるとともに、日常的なかかわりの中で、教職員、児童生徒相互の人間関係づくりに努めています。

主要項目	内 容	取り組み状況	課題	評 価
道徳・人権教育	道徳の時間の指導の充実	指導案を作成しての研究授業の実施	全校で研究授業が実施されているが、指導助言が十分出来ていない。	B
	児童・生徒の学校生活を把握する為のいじめ・不登校等調査の実施	毎月、いじめ・暴力行為等の調査及びいじめアンケートを実施している。	子ども達の言葉遣いの指導、友人関係での悩み等への対応が必要。	B

たくましい心と体をはぐくむ教育の推進

幼児・児童・生徒の体力の向上と健康の保持増進を目指し、健康教育及び保健教育の充実を図ります。又、教育活動の基盤となる安全な生活の確保のために諸事業を展開し、生涯スポーツの基礎を培うと共に、体力の向上が図れるよう学校体育の充実に努めます。

主要項目	内 容	取り組み状況	課 題	評価
体力向上・健康 保持増進	体力・運動能力、運動習慣等 調査の実施	体力調査、泳力調査の実施	児童生徒の柔軟性・持久力に 課題	B
	幼児児童生徒健康診断	健康診断の結果を、健康管 理システムを活用し、健康管 理に努める。	町全体に小・中学校におけ る肥満傾向及び予備軍の子ども 達が多い。保護者の意識も弱い。	C
	健康教育講演会等の開催	学校保健委員会を年3回程 度開催し、子どもの健康に関 する講話等を行う。	学校三師が町内8小中学校の 日程に対応できない。	B
交通安全指導	新学期に幼・小1年を対象に 安全協会・警察と連携した交通 安全指導を実施	各小学校において、信号機 の見方・横断歩道の渡り方等 について、実際に信号や横断 歩道を使った訓練を行う。	登校時に各小学校校門にて、 交通安全指導・挨拶運動をボラ ンティアで展開しているが、人 材が少ない	A
なつやすみ水泳 教室	子ども達が水に親しむととも に体力・泳力の向上を図る事を 目的に、夏季休業期間中に開催 する。	夏季休業期間中に、B・G プールを活用し、希望者のみ 午前、午後各4回開催する。	B・G プールに近距離にある地 域の子ども達の参加者は多いが 保護者の送迎等の問題で遠距離 の参加者が少ない	B

キャリア教育の充実

児童生徒に夢や希望を育ませ、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応し、主体的に生きることができる自立した社会人・職業人の育成を図ります。

主要項目	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
ジョブシャドー ウィング学習・職 場体験学習	町内各小中学校の児童・生徒 が職場を訪問し、仕事の観察や 体験をする。	町内の受け入れ事業所に、 児童生徒が1～2名ずつ配置 され、職場の見学・体験を行う。	児童・生徒の希望事業所に充 分に應える事ができていない。	A

食育の推進

食生活を取り巻く社会環境の変化などに伴い、食生活の乱れ、肥満・過度の痩身など生活習慣病と食生活の関係が指摘され望ましい食習慣が求められています。学校教育全体を通じた食育の推進に努め家庭や地域、関係機関と連携し児童生徒の健全な成長を支援します。

主要項目	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
給食センター運 営	児童・生徒の健やかな成長を 育むため、安全、安心な給食を 提供	小学生493名・中学生2 64名・教職員133名に給 食を提供	・地場産物の活用 ・建物が老朽化し、今後の食の 安全・安心が懸念され改築が 急務である	B

特別活動の充実

児童生徒が充実した学校生活を送り、学級や学校での集団活動を通してより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育むとともに個性の伸長に努める。

主要項目	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
島外派遣費補助	中学生が島外で活動する際、旅費等の一部を助成・支援	中体連・中文連大会での島外活動時において、一人5千円の助成をしている。尚、スポーツ大会においては上限人数枠を設定し助成。(県大会は一人8千円助成)	大会に参加するが、大会日程前後に個人等の予定にて大会行程から璃団する場合の助成の取扱を検討する。	A

平和教育の充実

生命の尊重と個人の尊厳を基本とし、思いやりの心や寛容の心を育む為にも、県や久米島町の歴史や地域の特性を考慮し、児童生徒の発達段階に応じた平和教育を教育計画に位置づけ、学校の教育活動全体を通じて組織的・計画的に推進を図ります。

主要項目	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
平和教育	1, 小・中・高校生の代表が参加する慰霊祭 2, 恒久平和を願う平和学習の開催	1, 6月23日の慰霊の日における、町主催の慰霊祭に学校代表が参加 2, 久米島博物館で特別展、及び戦跡巡りを開催	戦争体験者が高齢となり、戦争や平和の尊さについて話を聞ける機会が減少し、歴史の継承が薄れつつある。	A

国際理解・外国語教育の推進

急速な国際化に伴い、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成することが求められています。学校においては小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、あわせてコミュニケーションの手段としての英語に慣れ親しませ、小・中学校の学びの連続性を踏まえた英語によるコミュニケーション能力の育成を一層充実させ、これからの社会で羽ばたけるよう育成を図って参ります。

主要項目	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
国際理解教育	中学校の英語学習の助手として、1名のALT（外国人英語指導助手）が、中学校で英語の指導を行う。	中学校の英語指導助手として、町内3中学校で、教科担任の助手として、英語学習の指導を行う。	教科担任との授業内容に関するミーティングの時間確保が難しい。	A
	小学校の英語学習の助手として、1名のJET（日本人英語指導助手）が、6小学校で英語の指導を行う。	小学校の英語指導助手として、町内6小学校で3年生以上の学年で英語学習指導を行っている。	各学級担任との授業内容に関するミーティングの時間調整が難しい。	B
	国際化・高度情報化時代に対応できることを目的に、アメリカでのホームステイの実施	町内の英検3級以上の中学生から募集し、選考された3名をアメリカにホームステイ一させる。	英検3級以上の中学生を対象に海外ホームステイ派遣を実施しているが、応募者が少ない。	A

特別支援教育の充実

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導や必要な支援を行うものであります。学校においては、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を構築し児童生徒の状態、特性等や学級の実態に即した教育課程を編成するなど特別支援学級の教育課程の充実を図る組織的な取り組みを推進します。

主要事業	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
就学指導委員会設置	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童及び生徒のより良い就学指導を行うための調査・審議	就学指導委員により心理学的検査結果を基に、特別支援学級又は通常学級にて特別支援員を配置するか判定している	心理学判定員の人材の確保	B
特別支援教育支援員の配置	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童及び生徒を、授業やその他の教育活動等で支援する事を目的に、必要のある学校に特別支援教育支援員を配置	小学校に8名、中学校に2名の特別支援教育支援員を配置し、児童生徒のサポートを行っている。	特別支援学級において、情緒的な支援が必要な児童生徒が増える状況にあり、特別支援教育支援員が不足している。	C
特別支援教育アドバイザーの派遣	特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に関する助言、支援学級担任・特別支援教育コーディネーターへの助言等を行う特別支援教育アドバイザーの派遣	儀間啓子先生が、特別支援教育コーディネーター連絡会において助言及び支援学級担任や保護者への助言を行っている。	特別支援教育アドバイザーの研修の充実、今後の人材育成	B

情報教育の充実

高度情報通信ネットワーク社会においては、児童生徒がコンピュータやインターネットを活用し主体的に対応できる「情報活用能力」を育成することが求められています。国際化・情報化の時代に対応する先見性と国際性に富んだ人材の育成を図るため、広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図る教育を推進します。また、情報化社会に対応できる情報活用能力を育成するため、情報教育の一層の改善・充実を図ります。

主要項目	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
小・中学校情報教育	高度情報通信社会に対応できる為の小中学校の情報機器の整備	学校内のコンピュータの環境整備を図り児童生徒のITを活用した情報教育や各学校の情報発信を図る。	ホームページの更新状況に、学校差がある。	B

環境教育の充実

環境教育は、環境の保全など接続可能な社会の創造に向け、児童生徒が環境に対する主体的な行動と実践的な資質や能力及び態度を身に付けるために行う必要があります。学校においては、地球規模の視野に立ち、身近な環境や環境問題に対して関心を持たせ、教育活動全体を通し、人間と環境との関わりについて理解を深める取り組みの推進を図ります。

主要項目	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
環境教育	クメジマボタルの生息環境と生態を知り森と水辺環境の大切さを知る学習	教育委員会・久米島ホテルの会主催のホテル観察会が4月中旬から5月中旬に実施。	環境変化に伴いクメジマボタルの個体が毎年減少傾向にある。また、自然観察であるため、日によって観察状況に違いがある。	B

環境教育	水生生物の種類・水質の学習を行う リバーウォッチング（水生生物調査）	各小学校6年生が白瀬川で、水生生物の種類や水質の調査を実施。	学校の授業計画の中で時間数の調整に伴い参加する学校数が少なくなりつつある。（同じ日にやると日程調整がつかない）	B
------	---------------------------------------	--------------------------------	---	---

生徒指導の充実

生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度の育成と、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指し、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるような生徒指導の充実を図ります。

主要項目	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
スクールカウンセラーの配置	スクールカウンセラーが、児童・生徒・保護者の支援を行う	町や県から配置されたスクールカウンセラーを各学校へ派遣し、不登校や問題等がある児童生徒への相談支援を行っている。	子ども達の悩みや問題の要因等に多様性があり、またカウンセラーの訪問回数が少ないことで、十分な支援ができていない	B
毎月の問題行動状況の把握	児童・生徒の学校生活を把握する為、問題行動調査を毎月実施	町内の全小中学校における不登校・暴力行為等の調査を、各学校及び学年ごとに毎月実施集計し、報告する。	不登校児童生徒への支援	B
関係機関との連携	問題の内容に関係する機関と連携し、適切な対応を取る	町の福祉課、警察、県の児相等との連携を行い対応する。	問題のある児童生徒を関係機関へつなぐが、対応が充分に出来ていない	B

幼児教育の充実

幼稚園教育は、園生活全体を通して豊かな心情・積極的な意欲・健全な生活習慣，態度を育て、調和のとれた人格形成の基礎を培うものであります。幼児に適切な環境を与え、遊びを中心とした総合的な指導を通して、幼児の健全な発育を促進しながら、保護者及び小学校との連携を積極的に推進します。

主要項目	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
幼児教育	幼稚園児保護者の子育て支援として預かり保育の実施	保護者の子育て支援として、午後の保育を希望する園児を対象に、仲里、清水幼稚園で預かり保育を実施している	町内各幼稚園にての実施希望があるが、予算及び指導員確保が難しいので仲里・清水幼稚園の2園にて対応している	B
	幼稚園教諭の不在時に補充の職員を配置する	幼稚園教諭の休暇・出張等の際に補充として派遣している。また、園外保育などへも補充を派遣し安全面等への配慮も実施している	複数園で教諭が急な休暇等の場合があった場合対応ができなくなる	B
	支援を要する園児へのヘルパーとして配置する	大岳、仲里幼稚園にヘルパーを配置し、安全面等への配慮を行っている、	幼稚園において支援を必要とする園児が増える可能性があるが、現状は財政的な面で人材配置が厳しい	B

青少年の健全育成

豊かな心と健全でたくましい青少年を育成する為、学校、家庭、地域社会がその教育機能を発揮するとともに生活体験・自然体験の機会を多く持つとともに、ボランティア活動の活性化に務めます。また、地域社会が「地域の子どもは、地域で育てる」意識を高め、子どもの教育に多くの大人が関わり、地域の教育力の活性化・高揚を図る諸施策を推進し、地域青少年の個性伸長や協調性涵養のために、青少年の社会参加や体験活動の拡充を図り、文化活動への参加の気運を高めるために地域の芸能・文化活動等の促進を図ってまいります。

主要項目	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
児童・生徒交流	<小学校・なかさと交流> 新潟県の児童との家庭・学校交流を年2回実施	2月に新潟県十日町市に5年生14名を派遣、7月には本町において14名の児童を受け入れる。	児童数の減少により、小規模校では、男女の割当数の調整が必要である。担当・引率教諭への負担軽減が必要である。	A
	<中学校・佐賀市交流> 佐賀県の生徒との交流	12月に佐賀市への派遣、8月に佐賀市からの中学生を受け入れ交流を図る。	男子の応募者が少なく交流学习に支障がある。	A
夏休みものづくり体験教室	夏休みの体験学習また自由課題として、8つのものづくり教室の開催	昔ながらのおもちゃ、最近の手作りの道具等、バラエティーにとんだものづくりに親子で参加している。	刃物を使うものづくりがあり事故等が懸念されるので確実に保護者そろっての参加が望ましい。	A
ヤングフェスティバル	子ども達が各教室等で学習してきた成果を披露する発表会	幅広いジャンルの子ども達の発表会とし、たくさんのプログラムにより家族が声援を送っている。	出演団体が多く、開催時間が長時間となってしまう。	A
久米島町子ども読書まつり	本の楽しさ・読み聞かせの楽しさを保護者に伝え家庭で読書の環境づくりができることを目的として、改善センターにて開催	沖縄県子どもの本研究会の職員や地元サークル団体による読み聞かせや絵本の解説、展示販売を行っており、多くの親子連れが参加している。	販売本の数やジャンルに限りがあり、ニーズに十分対応しているか不透明である。	A

久米島現代版組踊り	地域の希望・宝である子ども達（中・高校生）が、生まれ育った地域の文化・歴史に誇りを持ち、郷土の歴史を題材としたストーリーを現代版組踊りとして舞台発表を行うために結成	一括交付金を活用した久米島公演、各事業所・町民等の協力の下、那覇公演を開催した。 ・久米島公演 平成26年2月23日開催 約850名 鑑賞 ・那覇公演 平成26年3月28日開催 770名 鑑賞	事業実施に必要なソフト（人的指導者等）・ハード（設備等）が島内で調達できない。 年次的な参加者（中・高校生）の見通しが立てづらい。	A
-----------	--	--	--	---

社会教育の充実

町民の社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するため、施設の整備や社会教育指導者、体育指導員の養成・活動を充実させ、多様な学習機会の提供を図ります。また、家庭教育や地域活動を支援し、各関連機関との連携に務め地域の教育力の向上に努めます。

主要事業	内 容	取り組み状況	課 題	評価
星空観察会	天文学や宇宙について興味や知識を深めるために、専門家を講師として招く観察会の実施	夏休みの8月中旬、シンリ浜公園地において、希望した親子を対象に実施した。	参加者は多いが、自然観察となるため、天候に大きな影響を受けてしまう。（雲が多く星空観察の時間が短かった）	B
久米島町新春書道展	文字文化を通して忍耐強さ、素直に学ぶ心の育成及び町内の書道の普及を目標に実施	島内小中学生の応募が496点、高校生・一般から18点の応募がある	書道人口の減少 一般の部の応募数が少ない状況 参観者が少ない状況	A

移動図書館ホタル号	幼児・児童、又、町民が誰でも何処に住んでいても、本に親しみ・図書が利用できることを目的とした、移動図書館	週3回、町内を巡回し図書の貸し出しや絵本・紙芝居の読み聞かせ等を行っている。	各ステーションへは隔週の巡回となるので利用者には不便	B
放課後子ども教室	様々な各種活動を通して放課後における子ども達の居場所づくりを目的として開催	スポーツ・文化・読書・体験活動等により放課後の子ども達の安全・安心な居場所の確保と学習環境作りを図っている。	各小学校単位とし支援を行っているが、地域に人材が不足し万全な体制が構築されていないため、教室開始時間までに管理する大人の不在時間帯がある。	B

スポーツの振興

生涯スポーツ、健康体力の基礎となる学校体育の充実、生涯スポーツ社会の実現をめざす為、施設・設備の充実を図り、スポーツの普及振興、健康保持・増進に務めます。また、生涯にわたり健康で心豊かな生活を営むためには、自発的・自主的な運動の日常化や健康生活を實踐できる能力の育成が重要であり、地域社会及び関係団体等との連携を密にし、支援体制の充実・強化を図ります。

主要事業	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
町民運動会	町民の親睦と体力増進を目的に全町民を対象に実施	毎年体育の日前後の日曜日開催。競技やレクの種目において幼児から老人まで楽しんでいる	陸上競技人口の減少に伴い種目によっては欠場するチームがある。島外の行事と同日なので各チームとも選手選考が課題	A
学校施設の開放 (運動場・体育館)	町民の生涯スポーツ活動の推進と健康増進を図ることを目的に、夜間に学校施設を開放	各社会体育団体に、毎月使用予定を提出させ、学校と連携を取りながら使用させている。	戸締まりがなされていない場合があり、指導していく必要がある	A

各種競技会支援	小体連・中体連行事等の支援	事業実施予算の補助を行っている。	補助内容にて、各種大会等で共通する備品（ストップウォッチ、メジャー等）補助を見合わせている。	B
久米島町パークゴルフ協会	協会事務局として生涯スポーツとしてのパークゴルフの普及・振興を通して会員相互の交流と親睦を図り、心身共に健康で明るく楽しい地域社会づくりに寄与	日本パークゴルフ協会正会員・同コース会員・公認コースの認定を受けた。また、町民を対象とした大会の開催や指導員・アドバイザー養成の認定講習会を開催した。	社会体育・生涯スポーツとしての大会開催やマナー講習会等の実施が安定的に計画・開催できていない。	B

生涯学習の推進

生涯学習の推進にあたっては、町民一人一人が学習の各時期において生きがいのある人生を過ごすことができるよう、学習形態と施設の整備拡充や諸施策を展開します。最近の調査によると国民の3分の2以上が「生涯学習」に関心を示しており、人々がいつでも自由に学習機会を選択し、学習活動を楽しもう・生きがいを見いだそうとする学習意欲が高まりつつあるので、的確にニーズを把握し環境を整備するとともに拡充を図って参ります。

主要事業	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
三線教室	沖縄が世界に誇る三線を基礎から楽しく習得する事を目的に、初心者向けの教室を実施	6月から12月まで毎週1回、具志川教室・仲里教室の2ヶ所で実施している	長期間（約半年間）の講座であるが、途中から参加しなくなる受講者がいる。	B
手話教室	手話の学習を通して、聴覚障がいについての知識を深める、幅広い年代でコミュニケーションを図り、交流の輪を広げることを目的に開催	6月から12月までの全18回、毎週火曜夜7時から8時30分まで、仲里庁舎2階会議室にて実施。修了後、希望者はサークルへ移行し活動を続ける	・欠席者へのフォローが難しい ・人数が少ないと検定試験が受験できない ・初級・中級コースに進みたいとの要望がある	A

かぎやで風教室	沖縄の伝統芸能である琉球舞踊に親しむ第一歩として、「かぎやで風」の習得を目指した初心者向けの教室の実施	5回コースと10回コースを設定し、8月から毎週火曜日に老人福祉センターにて実施	初心者を対象とするため、扇子（貸出・販売）の用意が必要。練習を重ね、宴席などで披露する機会を持ち定着を図りたい。	B
移動図書館 (県立図書館)	図書館のない地域を対象に、県立図書館が図書の展示・貸出を行なう図書館の開催	年に1～2回、具志川改善センターにて開催。 期間を2日間とし、また同時に読み聞かせ等も行い多くの町民の参加、貸出利用を勧める。	読書家の来場は多いが、本に興味の無い方へのアプローチが難しい。本に触れる機会を増やし、多くの町民に読書の価値を理解・浸透させたい	A

文化・文化財の保存継承

町民が等しく郷土の文化にふれ、文化財に対する理解を深めるとともに、豊かな文化生活の形成に資するために、文化財の保存・活用及び芸術文化の振興を図ります。このため、町の史跡等の復元整備をはじめ、国・県・町指定文化材の環境整備を推進するとともに、建造物、美術工芸品、史跡、名勝、天然記念物等の調査、また無形文化財、民俗文化財の継承者養成に努めます。

主要事業	内 容	取り組み状況	課 題	評 価
収蔵資料の管理・活用	収蔵資料の適正管理・公開活用を図るため、資料管理のデータ化を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 三年間で収蔵資料のデータ管理台帳作成。 紙ベースの台帳からデータ化入力。 	平成25年度～28年までの3年間事業であり、進行中にて平成25年度は予定30%達成した。	A
宇江城城跡保存管理計画策定	平成21年に国指定史跡に指定され、城跡保存管理計画を策定し、適切な保存管理を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 保存管理計画策定委員会設置 保存管理計画策定業務委託 	平成25年度～27年度までの2年間事業にて、平成25年度事業分は終了した。	A

町史編集	地域文化を育み、郷土に対する関心と愛着をより深めるため、歴史と文化を科学的に解明する町史編集を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・町史編集委員会設置 ・町史編集計画策定 ・通史編目次案作成 ・通史原稿執筆依頼準備 	町史編集委員会立ち上げ、町史編集計画策定作成、原稿執筆依頼し調整中である。	B
シルクサミット開催	久米島紬を通して島の魅力の発信と、交流による工芸技術の向上を図ることを目的に開催（全国大会）	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の織物関係者の参加及び協力を得て実施。 	平成25年10月10日・11日成功裡に開催 参加者170名、開催内容等高い評価を得た。	A

教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月10日を基本に定例会を開いています。平成25年度は14回(臨時会2回を含む)開催しました。

(2) 教育委員会会議以外の活動状況

○ 研修会(4回)

沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会 (25年度5月)

沖縄県市町村教育委員研修会 ・那覇地区市町村教育委員会連合会研修会 (25年度10月)

市町村教育委員会教育委員委員・教育長研修会 (26年2月)

○その他活動状況（各種行事等への出席）

年度	月	行 事 名
2 5	4	各小学校入学式・各中学校入学式・久米島高校入学式
	4	教職員歓迎会
	5	久米島 PTA 連合会総会
	7	なかさと交流
	7	各幼・小・中運動会（7月～10月）
	8	佐賀市・久米島町中学生交流
	9	久米島古典民謡大会
	9	中体連陸上競技大会
	9	久米島 PTA 連合会研修
	1 0	久米島町学校音楽コンサート
	1 0	久米島小体連陸上競技大会
	1 0	久米島地区童話・お話・意見発表会
	1 1	町学力向上実践発表会
	1 1	久米島町民俗芸能発表会
	1 1	久米島町・佐賀市交流会（冬交流）
2 6	1	町新年会
	1	町成人式
	1	町ヤングフェスティバル
	1	久米島町新春書道展
	1・2	各幼・小・中学校 学芸会・学習発表会
	2	なかさと交流
	2	現代版組踊り「笠末若茶良」久米島公演
	2	小学校音楽発表会
	3	小・中・高卒業式
	3	現代版組踊り「笠末若茶良」那覇公演

外部評価委員の意見

委員長 吉原 昌司 氏
委員 赤嶺 實 氏
委員 宮平 厚子 氏

教育委員会の事務事業を説明して頂きましたが、内部評価面で弱い事業項目についての意見、説明事業の中で状況が把握できない部分について意見を述べたいと思います。

学習指導の工夫・改善・充実

- 漢字検定について、平成 25 年度は合格率が高いということですので素晴らしいことです。中学生の英語検定は、3 回まで検定料の補助があるということですが、1 回目、2 回目、3 回目と個別に合格率を出してほしい。3 回という回数については、学校代表ではなく、個人に与えられる機会であり検討する余地はあるが、全体的みると評価 B で妥当だと思う。今後も継続して検定事業を実施することを要望する。
- 公営塾については、ユイマール塾（小学生対象）は受講生徒が少なく、にゅーまー塾（中学 3 年生対象）は受講者が多い背景は何か。小学生の参加が少ない理由については、学校で放課後の補習が行われているため、（また地域の支援グループが子供達を指導しており）参加者が少ないからだと考えられるは。中学生については受験及び進路対策として受講している生徒がほとんどであると思われる。今後も、町で開設している公営塾の周知徹底を図り、基礎学力の向上が図られるよう取り組むことが必要である。
- 学力向上実践発表会については、各学級の授業参観については、それぞれ教科の特性や創意工夫がなされ良かったが、全体の実践発表会については、毎年ほぼ同じ内容で、保護者、地域の方の参加が少ない原因の一つではないか。今後は、学校、保護者、地域が一体となった新しい取り組みが必要である。

たくましい心と体をはぐくむ教育の推進

- 体力向上・健康保持増進については、久米島町（福祉課、教育委員会）・公立久米島病院の連携が他市町村に比べて進んでいる。現在小中学校に肥満傾向の子供達が多いのは事実だが、前年度に比べてかなり改善されており取組みは評価されるべきであり、CからB評価へ修正すべきである。確かに医者、歯医者、薬剤師が学校日程に対応できない実情もあるが、極端に言えば会議の開催回数ではなく、保護者、学校現場が町の施策と連携し、町の健康プロジェクトに沿う形の活動実践がどれくらいできているかで評価してほしい。
- 食育の推進については、給食のことしか主要項目にあがってないので、食育に関することとかもっと項目があつて良いのでは。給食センターの栄養士とは別に、学校現場に直接関わることも大事なことであり、今後栄養教諭の配置についても考えられないか。
- 島外派遣費補助については、沖縄本島への派遣の補助については評価するが、先島大会（宮古、石垣等）での開催される大会への派遣に関する補助に関しては、経費もかかるので増額する基準も必要ではないか。

特別支援教育の充実

- 特別支援教育支援員の配置については、評価に関わる意見ではないが、要望として乳幼児の子育て支援の段階から継続する必要がある、福祉課との連携を図りながら、丁寧できめ細かな支援ができる支援員が必要だと思う。

幼児教育の充実

- 幼児教育の中で保護者の子育て支援策として、2園にて預かり保育を実施しているが、預かりのない園との不公平感を解消できないか。送迎バスの活用等必要ではないかと思う。何らかの配慮がないと親が預かり対応できる地域に移って行き、幼児の少ない地域はますます過疎化が進む。

青少年の健全育成

- 児童・生徒交流、ヤングフェスティバル、組踊りの取組みについては、子供達の交流・体験活動の支援・各種発表会等を通して、子供達の発表力、知識、技能の学びは実生活でも活用できるので更なる充実に向けて取り組んでほしい。

スポーツ振興

- 町民運動会は、社会教育の一環で町民の健康増進・体力増進を目的に開催されるべきであるが、競技力の向上という目的も含んでいる。競技力の向上が目的であれば、体協で検討すべきではないか。もっと気軽に町民が参加できるような内容にしてほしい。また、町民運動会の前後にも行事が多すぎるので、隔年実施を検討してほしい。

文化・文化財の保存継承

- 評価ではなく、意見として子供達が郷土の文化に触れ、文化財に理解を深めるためにも、学校の授業の中で史跡巡り等ができる一覧表をつくり、実践してほしい。

< C評価の項目に対する教育委員の意見 >

- (1) 久米島の子どもの肥満度は 全国の約 1.5 倍と大変高く、また生活習慣病の異常を持つ子どもも増えているという現状について、その事をどう保護者に伝え、指導していくかが大事。公立病院の小児科医や養護教諭と連携しながら、科学的根拠を持って個別指導や集団指導（授業等）の健康支援を行ってほしい。
- (2) 特別支援教育の充実の中で、支援を要する児童生徒が各学校に多く存在する中、10名の特別支援教育支援員の配置は、学校の要請に充分に答えられていない。可能な限り、特別支援教育支援員を増やし、支援を要する児童生徒や学校のニーズに応じてほしい。